

## 自然教育の重き

かつて日本は、科学教育や科学技术教育の振興に力を入れはじめたとき、その中でも大きな要素を占めなければいけないはずの、生命の理解や自然の保全の問題を無視してしまった。とくに青少年の学校教育では、昆虫や植物を収集する、学習にとらわれ宿題などこれを奨励し、子供たちにも、めずらしくて数の少ないものが貴重だとする価値感がありました。しかし、科学や技術の教育に先んじなければならぬのは、まず、人間として生命を大切にする教育であり、自然と環境の教育だったのではないでしょうか。

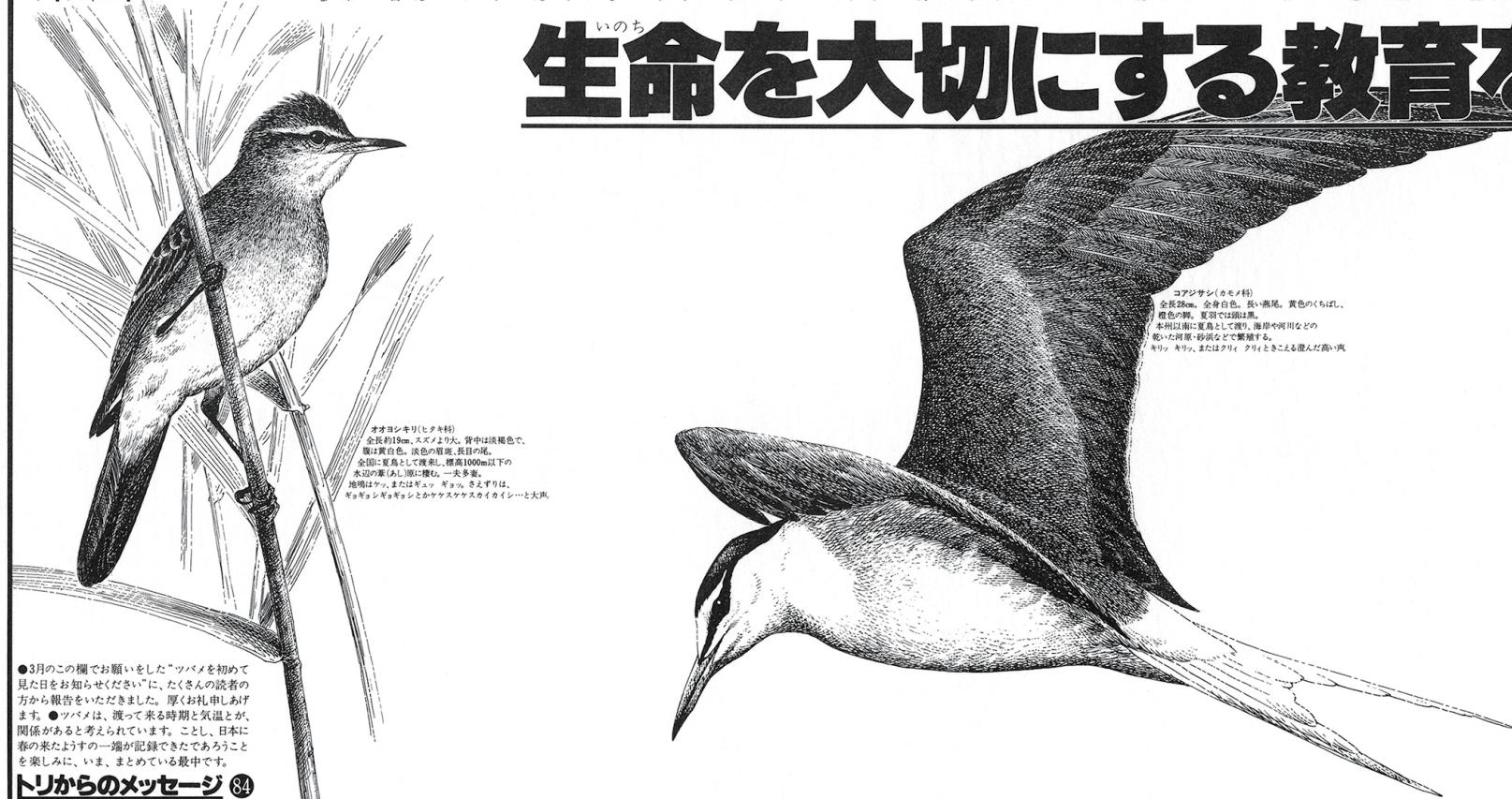
自然はどこにもあり、誰のものでもない、誰が手によよと、早いもの勝だとうエゴイズム。美しいものとみれば手に取りたがり、逃げれば追い、抵抗すれば殺す、死ねば捨てる。こんな行動がいかに誤った自然観を育て、だだムキ出の欲望となつて、かけがえのない自然をいかに荒廃に導いてきたことをどうぞ。

昔から「探ることの遊び」が行われてきた日本。わが国はもとより温暖な気候なので、人口が少ない時代ならば、そつした遊びがあつても自然の荒廃にはつながらなかつたかも知れません。しかし、いまは人口が増えて、皆がそつらうことをやつたら、たくさんの野生物がいなくなるだけではなく、いっぽうで開発による自然の荒廃がすさまじい勢いですんでやるので、やがては大変なことになるでしょう。

探る、という原体験は、子供の人間形成には必要不可欠とする意見もありますが、それは必要不可欠とする意見もありますが、そつたとしても、あつて逃がしてやる、もとへ戻してやる、といった体験こそ、生命を考える上では、いちばん大切な原体験だと思います。

美しい国土を破壊したり、生きものを意味なく殺す——それが人間文化だと思うような子供たちには育てたくないのです。

# 命を大切にする教育を



コアシサシ(カモノ科)  
全長約26cm、全身白色。長い燕尾。黄色のくちばし。  
褐色の脚。夏羽では頭は黒。  
本州以南に夏鳥として渡り、海岸や河川などの  
乾いた河原・砂浜などで繁殖する。  
キリッ、キリッ、またはカリ、クリイときこえる澄んだ高い声

●3月のこの欄でお願いをした「ツバメを初めて見た日をお知らせください」に、たくさんの読者の方から報告をいただきました。厚くお礼申しあげます。●ツバメは、渡って来る時期と気温とが、関係があると考えられています。ことし、日本に春の来たようすの一端が記録できたであろうことを楽しみに、いま、まとめている最中です。

**トリからのメッセージ 84**

●自然の一員としてのヒトの愛情——愛鳥キャンベーン  
法人 日本鳥類保護連盟  
サントリーリー株式会社  
●この広告は、財團法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、  
サントリーリー株式会社がサンリーズとして制作しています。

ヒトの心にトリの保護区を……より良い

ヒトの生存と、生命への愛情をはぐくみ、次の世代へ引き継ぐための大きなテーマ……

それが自然保護です。私たちがこの新聞広告や、全国各都市のペード・サクチュアリー・野鳥の森づくりの運動を通じて展開している「愛鳥キャンベーン」も、自然保護の精神から出発

して

ています。トリの命を護ることがヒト自身を守ることであり、かけがえのない自然をこれ以上にわざわざ護り育てようという社会環境をつくりを自分でして、これからも自然保護に関するいろいろな問題に取り組んでまいります。ヒトの心にトリの保護区を……より良い

自然環境づくり運動を……皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。